

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

建造物部門

江別市景観委員会

令和4年9月 江別市企画政策部都市計画課

【建造物部門】応募物件等一覧

(建造物部門：17件)

部門 番号	応募物件等		
	部門	名称	所在地
1	建造物	ホテルリボーン野幌・市民交流施設「ぷらっと」	東野幌本町6-43
2	建造物	サッポロ珈琲館 Rinboku (北海道林木育種場旧庁舎)	文京台緑町561-2
3	建造物	町村農場ミルクガーデン	篠津183
4	建造物	食事処アカギ	高砂町13-1
5	建造物	NHK江別ラジオ第2放送所	江別太580-4
6	建造物	食品加工研究センター	文京台緑町589-4
7	建造物	江別市生涯活躍のまち 「ココルクえべつ」	大麻元町154-12
8	建造物	札幌学院大学	文京台11
9	建造物	野幌8丁目通	野幌町地内
10	建造物	野幌公会堂	野幌代々木町54
11	建造物	江別市屯田資料館 (野幌屯田兵第二中隊本部)	野幌代々木町38-11
12	建造物	大麻神社	大麻宮町3-2
13	建造物	米澤煉瓦 株式会社	元野幌227
14	建造物	丸二北海煉瓦第2工場	東野幌213
15	建造物	とわの森三愛高校前バス待合所	文京台緑町569-51
16	建造物	野幌屯田兵屋	野幌寿町19(湯川公園内)
17	建造物	錦山天満宮	野幌代々木町38-1
	建造物	17件	

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 1

名称

ホテルリボーン野幌・市民交流施設「ぷらっと」

建築年：令和元年

所在地

東野幌本町6-43

《応募者推薦理由》

ホテルリボーン野幌はツートンカラーの清楚な建物で2019.12.24オープン
野幌駅南口徒歩1分と交通アクセスに恵まれています。館内のレストランもメニューが豊富で好評です。また、皆さんとふれあいの場交流センターも併設されており、地域の核となっています。

《応募写真》



《事務局撮影》





《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・野幌駅の新しい街の顔、そして、関わるすべての人がワクワクドキドキする「場」に。市の交流センターを併設し人と人、地域を結び合わせる拠点の役割を担い、65の客室とレストランで寛ぎを提供致します。(ホテルリボーン野幌)
- ・市民活動センター・あい、国際交流センター、市の証明交付窓口が入った市民交流施設です。施設内では、観光の案内や問い合わせ、図書の貸出（インターネット予約）・返却ができるほか、誰でも利用できる交流サロンやさまざまな活動ができる4つの会議室があり、市民活動や国際交流の拠点として利用できます。(市民交流施設「ぷらっと」)

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 2

名称	サッポロ珈琲館 Rinboku (北海道林木育種場旧庁舎)	建築年：昭和2年 店舗オープン：令和4年
----	----------------------------------	-------------------------

所在地	文京台緑町561-2
-----	------------

《応募者推薦理由》

A:なぜ今まで受賞していなかったか不思議な位、市の代表的な建造物だと思います。昭和天皇も行皇され、国の登録有形文化財にも登録。外観も改修され、新たなカフェをOPENし、市民の憩いの場となっています！

B:サッポロ珈琲館の移転・オープンに伴い、外装もキレイになったので、33件目の建造物部門の都市景観賞にふさわしいと思います。

C:自宅から近いが、オープンするまでこの場所を知らなかった。古い建物なのに、とてもオシャレで壊すのではなく、生かして活用することに魅力を感じた。この建物に喫茶なのも雰囲気合っている。

D:雰囲気が良い感じなので。

E:林木育種場が以前に受賞していますが、その時とは建物の装いも新たに、昭和レトロの面影を残しつつカフェとして生まれ変わりました。多くの人が集まるようになり、建物が新たな命を得たように思えました。

F:野幌の丘に建つ旧庁舎は大正、昭和初期に流行したハーフティンバー様式の建物で西洋風の異国を想像する様な建物で歴史的に考えても素晴らしい景観である。

《応募写真》



(事務局撮影)



(参考：改修前)



《備考》

- ・過去の応募状況：第12回（平成10年度）、第16回（平成22年度）（北海道林木育種場旧庁舎として）
- ・登録有形文化財（国指定）平成13年8月28日登録
- ・第12回（平成10年度）に建造物部門受賞の「林木育種センター北海道育種場」とは別の建物
- ・北海道林木育種場旧庁舎は、昭和2年に内務省林業試験場北海道支場として移転改築。その後、組織改編や名称変更を経て、昭和34年に林野庁北海道林木育種場庁舎となり、平成8年に林業の研究施設としての利用を終える。

建物は、石材、木材を組み合わせた構造で、大正、昭和初期に流行したハーフテンバーとよばれる柱・梁・筋交等の軸組を組み立ててからその間にセメントや石を詰め込んで壁をつくる建築法が用いられている。また、内部には木製ドア、腰壁板、窓枠などに優れた意匠が見られるほか、階段手すり、床仕上げや繰り型などに技量の高さを伺わせる左官工事がなされている。大正、昭和初期の庁舎建築物の中で現存するものは少なく、また北海道の林業史を物語る貴重な建物である。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 3

名称 町村農場ミルクガーデン

建築年：

所在地 篠津183

《応募者推薦理由》

A:初めて江別に訪れた際、こちらの建物が強く印象に残ったことと、赤い建物に紺色のサイロが牧歌的な風景にとっても映えていて地域のシンボルになっていると思うためです。

B:お墓参りの帰りにミルクガーデンに寄ったのですが、あまりにも、まとまった景色に感動しました。

《応募写真》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・第10回（平成8年度）建造物部門受賞「町村農場の母屋」は別建物。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 4

名称

食事処アカギ

建築年：

所在地

高砂町13-1

《応募者推薦理由》

私は江別で生まれ、江別第三小学校、同第三中学校、江別高校を卒業しました。12号線を通るたびに「素敵なお店だなあ」と思っており、先日伺うことができました。美味しいラーメンを頂き、ご主人に本コンテストへの応募の許可を頂きました。

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・昭和48年に営業開始。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 5

名称

NHK江別ラジオ第2放送所

建築年：

所在地

江別太580-4

《応募者推薦理由》

江別市の農村風景と送信塔が一体混然となって融け込むところが良い。NHK、HBC、STV と送信塔がある江別市だが、このNHK第2送信所のある場所がもっとも地味で知られざるころながら、春・夏・秋は特にハッとさせるくらい美しい農村に融け込んだ風景が展開する。

《応募写真》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・近隣にNHK江別ラジオ第1放送所あり。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 6

名称

食品加工研究センター

建築年：平成4年

所在地

文京台緑町589-4

《応募者推薦理由》

- ・食品加工研究センターは、本道の食関連産業の発展に寄与するため、食品加工に関する試験研究や技術支援を行う機関として、江別市文京台に開設し、今年で30年を迎えます。
- ・野幌森林公園に隣接した豊かな自然環境に囲まれ、外壁が江別産れんがを一部使用したれんが造りの建築物です。
- ・建物の1階ロビーは、れんがとガラスによる吹き抜け構造になっているため、外からの光が差し込む開放的な空間で、3階からは石狩湾方面を一望することができます。
- ・今回の応募を契機に、江別市民にとってシンボリックな施設として認知され、江別市内の食関連事業者には、これまで以上にご利用いただくことを期待しています。

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況： 第6回（平成4年度）応募あり
- ・研究棟（RC造3階建）と試験棟（RC造1階建）に分かれている。
- ・食品加工研究センターでは、北海道の食関連産業の育成を総合的かつ効果的に推進していくために「食品加工研究の展開方向」を策定し、研究開発を進めるとともに、本道の食関連産業への技術支援を行っている。また、北海道立総合研究機構の総合力を活かし、「産学官金」との連携を強化しながら、事業の効果的な展開に努めている。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 7

名称

江別市生涯活躍のまち「ココルクえべつ」

建築年：令和3年（開業）

所在地

大麻元町154-12他

《応募者推薦理由》

令和3年開業の生涯活躍のまち「ココルクえべつ」`CCRC=健康時から介護時まで継続的ケアを提供する高齢者のコミュニティ、の理念の下に長年の構想と準備を経て大麻元町に誕生。多様な機能が備わる注目のスポット。

朝日、夕暮れ、月明かりに照らされ、時間帯や眺める場所によって様々な景色が楽しめ、“景観、という視点からもココルクえべつが多様で可能性に満ちた環境だと期待できます。

生涯活躍のまち、地域共生社会の実現に向け、大麻元町で持続できる拠点として入居者様がココで暮らすこと、障がいの有無を問わず利用者様が役割をもって活躍し居場所となること、地域住民やボランティア、関わりのある方々にとっても、魅力に惹かれ共生できる環境として育まれていくことを願っています。

《応募写真》





《参考》





《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・江別市民が生涯にわたって安心して生活できるまちづくりや、若年層や障がい者など多様な主体との交流による「共生のまち」を実現するため策定された江別版「生涯活躍のまち」構想に基づき、社会福祉法人日本介護事業団を代表法人としたつしま医療福祉グループにより札幌盲学校跡地に建設。

※ココルクえべつ内の施設

- ・特別養護老人ホーム「日本介護江別」
- ・介護老人保健施設「日本介護江別」
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所「日本介護江別」
- ・企業主導型保育所「あさのわ」
- ・障がい者グループホーム「『なかま』江別」
- ・パン工房「あさのわ」（就労継続支援A型事業所）
- ・レストラン「こう福亭」「開拓うどん」（就労継続支援A型事業所）
- ・天然温泉「ココルクの湯」
- ・サービス付き高齢者向け住宅「『ゆうゆうじてき』江別」

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 8

名称

札幌学院大学

建築年：

所在地

文京台1-1

《応募者推薦理由》

札幌学院大学と空のコントラストがきれいで撮影応募してみました

《応募写真》



《参考：大学HPより》





《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・建物群の前に位置する野外ステージ「学生プラザ」は第11回（平成9年度）に特別部門受賞済み
- ・敷地内の「建学記念館」は第4回（平成2年度）に建造物部門受賞済み
- ・札幌学院大学は1946年創立の札幌文科専門学院を前身とする私立大学で、1968年に札幌商科大学として設置され1984年に現在の名称に改称。
- ・A～G館、1～3号館、図書館研究棟に分かれる。

名称

野幌8丁目通

建築年： 令和4年

所在地

野幌町地内

《応募者推薦理由》

道路拡幅工事が終わって、8丁目通はとてもきれいになりました。電柱もなくなり景観はみごとです。

《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況： なし
- ・平成18年度より事業着手した「江別の顔づくり事業」の一環として当該区間は北海道により整備。沿道及び周辺は「野幌商店街建築協定」や「野幌商店街まちなみづくり協定」に基づき、れんがのまちにふさわしい街並みづくりが図られている。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 10

名称

野幌公会堂

建築年：昭和13年

所在地

野幌代々木町54

《応募者推薦理由》

青空と雪と江別公会堂

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・住区会館のひとつ。
- ・地域住民の産業・文化活動の中心的場「野幌兵村公会堂」として建設された。一部は野幌産業組合の事務所や店舗として、戦後は野幌農業協同組合の支所として利用されていたが、昭和41年に市に寄付され、「江別市第二公民館」となったが、野幌公民館の新設により、現在は「野幌公会堂」と呼ばれている。

名称

江別市屯田資料館
(野幌屯田兵第二中隊本部)

建築年： 明治17年頃

所在地

野幌代々木町 38-11

《応募者推薦理由》

静かに春を待つ

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況： なし
- ・北海道指定文化財（昭和33年4月10日登録）
- ・洋風二階建て、建築面積 150.72㎡、屋根は切妻造り、小屋構造はバルーンフレームと呼ばれ、開拓当時のアメリカ風建築手法が用いられている。平成6年に創建当時の形態に復原され、現在は、「屯田資料館」として屯田兵関係資料を展示し、一般公開している。

名称

大麻神社

建築年：

所在地

大麻宮町 3-2

《応募者推薦理由》

なし

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・明治33年麻畑（現在の江別市大麻の一部）に最初に入植した福屋角助が大麻の小高い丘に「八百万神」と記した角柱を建て祭りを行っている。
同年、大曲の平本与三吉の宅地にも小祠を建立し祭祀し、続いて明石石之助も小祠を建立し「十二錦山神社」として開拓者の寄りどころとした。
この3つの神社に、大正8年他地区にもあった小祠2柱を合祀し、現在の位置に本殿拝殿を御造営し社名を大麻神社と呼称し、この5柱神を「開拓祖神」として今日まで崇められている。（北海道神社町HPより引用）

名称

米澤煉瓦株式会社

建築年：

所在地

元野幌227

《応募者推薦理由》

レンガの町・江別の象徴

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・昭和14年創業。昭和51年に現在の位置に移設。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 14

名称

丸二北海煉瓦第2工場

建築年：昭和36年

所在地

東野幌 213

《応募者推薦理由》

レンガの町・江別の象徴

《応募写真》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・昭和54年に第一工場閉鎖に伴い、現在の位置に移転。
- ・丸二北海煉瓦株式会社（本社：野幌代々木町）は、大正10年創業、令和3年度をもって、煉瓦・農業用土管の製造を中止。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 15

名称

とわの森三愛高校前バス待合所

建築年： 昭和 63 年

所在地

文京台緑町 569-51

《応募者推薦理由》

なし

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況： なし
- ・昭和63年に学校法人酪農学園により建設。国道12号沿道のとわの森三愛高校前に設置され、同学園の礼拝堂の尖塔をイメージしたデザインになっている。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物部門) No. 16

名称

野幌屯田兵屋

建築年：明治19年頃

所在地

野幌寿町19 湯川公園内

《応募者推薦理由》

なし

《応募写真》



《事務局撮影》



《備考》

- ・過去の応募状況：なし
- ・明治19年広島県から屯田兵として入地した湯川一家7人が生活し、その後、二代目が使用したものを江別市が譲り受け、公園整備に合わせ、昭和52年に復原した。兵屋の室内には開拓時代からの農具などを置き、当時の様子を再現している。

第20回江別市都市景観賞 1次審査資料

(建造物・特別部門)
No. 17

名 称

錦山天満宮
エゾエンゴサクの群生地

建築年：
活動年等：
活動者等：

所在地

野幌代々木町 38-1

《応募者推薦理由》

なし

《事務局撮影》

(錦山天満宮)



《応募写真》

(エゾエンゴサクの群生地)



《備考》

・過去の応募状況：なし

(錦山天満宮)

・明治18年、翌19年、九州各県・山口・広島・岡山・鳥取の各県から野幌屯田兵の入植により原始の密林を開拓し、入植者の「心のよりどころ」として明治22年伊勢皇大神宮から御分霊を奉斎したのが始まりである。昭和62年には御鎮座百年を迎えた。創祀当時は「錦山神社」として野幌地域の鎮守、五穀豊穡の神として崇拝されていた。昭和48年、九州太宰府天満宮から菅原道真公の御分霊を奉戴し、錦山天満宮と改名して以来「天神さま」の御神徳を仰ぎ今日に至る。平成2年には、太宰府天満宮より御神納の梅の苗木を賜り、境内には梅園が造成された。

(エゾエンゴサク)

・錦山天満宮境内では、神社の周りをエゾエンゴサクが青紫色に染めている。(期間限定)
・エゾエンゴサク(蝦夷延胡索)は、北海道から東北地方の日本海側に分布し、主に落葉広葉樹の湿った森林内に生える多年草である。花の色は青系、紫系、赤系と変異が多く、時には白い花も見ることができる。花は茎の上部に総状に咲く。春先に花を咲かせ、若葉が広がる頃には地上部は枯れてなくなり、その後は翌春まで地中の地下茎で過ごす草花(スプリングエフェメラル)である。

